

## 「ゆらぎ」と共に学ぶ意味

山道を登ってくる低学年の子どもたちが、栗の実やドングリをいくつも持って登校してくるようになりました。また、校門の両側に立つ木の葉もどんどん落ちてきています。ずいぶん秋も深まって参りました。

また、10月23日24日の両日には、6年生が紀南地方への修学旅行に行ってきました。例年のように社会科の歴史学習と連動して、奈良・京都へはいけませんでしたが、和歌山県のふるさと学習として、いろいろと見聞を広め充実した旅行ができたと思います。

さて、9月上旬には文部科学省から、「学校の新しい生活様式」Ver.4が出され、十分な感染症対策は必要なものの、少しずつ以前と同じ学習が出来るようになってきました。下の写真は、低中高学年の授業の様子です。



左 2年  
中 4年  
右 6年

学校再開当初は、子供同士が面と向かって話し合うことにも、気を遣うようなことがありました。しかし、今もマスクの着用は必要ですが、ペア学習やグループ学習も以前と同じように行っています。

本校では、以前からペアやグループでの伝え合いを大切にしてきました。子どもたちは当然一人一人個性や考え方に違いがあります。子供同士が考えを伝え合うと、考えのズレから、「あれ?」「え?」「おお!」といった心の動きが生まれます。すると、子供が立ち止まって考え直すようになります。これを子供の思考の「ゆらぎ」と言います。そして、そこから、「どうして?」という疑問が生まれ、疑問を解決するために「～したい」という主体的な学びに向かいます。

「ゆらぎ」は子供同士の対話だけでおこるわけではなく、教える教師の「ゆさぶり発問」といわれる問いかけによってもおこります。しかし、教師の側からの働きかけばかりでは、教室で友達と一緒に学ぶ意味は薄れてしまいます。加えて、ペアやグループで学習していても、友達の意見に興味がなかったり、他のことに気をとられていても、当然対話を通した「ゆらぎ」は生まれません。そのため、普段からの友達同士のつながりや仲間意識も大切にしようとしています。

今年度前半は、コロナウィルス感染症のため、子供同士の、そして教室での学びの中での「つながり」が寸断されてしまいました。まだまだ油断は出来ませんが、和歌山県内や紀美野町内での感染状況が落ち着いている今こそ、普段の授業でのペア対話やグループ活動など、友達と「ともに学ぶ」時間を大切にして、「主体的・対話的で深い学び」を目指したいと思います。

学校長 北川 勝則

## 子育てのヒントとなる読書案内

『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』 帚木蓬生：著 朝日新聞出版  
小説家 精神科医

(※今回は、著者の講演を聴いたスクールカウンセラーが筆者に出した手紙の部分を引用します。)

(前略)今の時代は、「こうすれば、苦勞なしで、簡単に、お手軽に解決しますよー」のほうを受けるのです。でも、お手軽な解決ばかり求めてしまうと、何かかが欠落していきまじ、結局は行き詰まってしまう。なぜならば、「世の中には、すぐには解決できない問題の方が多し」からです。

ことによると、学校現場は、すぐに解決できない問題だらけかもしれません。したがって教育者には問題解決能力があること以上に、性急に問題を解決してしまわない能力、すなわち「ネガティブ・ケイパビリティ」があるかどうか重要になってきます。

そうして私たちだけでなく子供たちにも、問題解決能力(ポジティブ・ケイパビリティ)だけでなく、この「どうしても解決しないときにも、持ちこたえていくことができる能力(ネガティブ・ケイパビリティ)を培ってやる、こんな視点も重要なかもしれません。

解決すること、答えを出すこと、それだけが能力ではない。解決しなくても、訳が分からなくても、持ちこたえていく。消極的(ネガティブ)に見えても、実際には、この人生態度には、大きなパワーが秘められています。

どうしてもならないように見える問題も、持ちこたえていくうちに、落ち着くところに落ち着き、解決していく。人間には底知れぬ「知恵」が備わっていますから、持ちこたえていればいつかそんな日が来ます。「すぐには解決できなくても、なんとか持ちこたえていける。それは、実は能力のひとつなんだよ」ということも、子供にも教えてやる必要があるのではないかと思います。

## 子どもにすすめたい本 親子で読みたい本

『ながーい5ぶん みじかい5ぶん』

リズ・ガートン・スキャンロン/オードリー・ヴァーニック：文  
オリヴィエ・タレック：絵 木坂 涼：訳 光村教育図書



2020年度の「青少年読書感想文全国コンクール」低学年の部の課題図書でした。なので、読んだことがある子も多いかもしれません。時間の感じ方を表現した絵本です。同じ5分でも、長く感じたり短く感じたりすることは、誰でも経験したことがあるのではないのでしょうか。長い5分や短い5分をいろいろな状況で描いているので、実際の自分の体験と比べてみるとおもしろいかもしれません。読後に親子で、「どうして長く感じたのか、短く感じたのか」を考え合えるといいですね。

## 11月行事予定

- |                      |                                   |
|----------------------|-----------------------------------|
| 2日(月) 集団登校 街頭指導      | 18日(水) クラブ活動(4~6年)                |
| 3日(火) 文化の日           | 19日(木) わうクラスⅡ(1~3年)               |
| 4日(水) 委員会活動(4~6年)    | 20日(金) 柿収穫体験(1~3年)                |
| 5日(木) 避難訓練(地震対応)     | 23日(月) 勤労感謝の日                     |
| わうクラスⅠ(1~3年)         | 24日(火) スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー来校 |
| 10日(火) スクールカウンセラー来校日 | 26日(木) 授業参観・親子寄せ植え教室              |
| 13日(金) 集団登校日(1~5年のみ) |                                   |
| 町陸上記録会(6年)           |                                   |
| 16日(月) 町陸上記録会予備日     |                                   |

★11月2日(月)~6日(金)は学校開放週間  
☆12月2日(水)は漢字の博士試験Ⅱ期

